ダケニとダケアッテの解釈と構造

言語学・応用言語学専門分野
2009 年（平成 21）年入学
1LT09112Y
橋本萌子
2013 年（平成 25）年 1 月

要旨

ダケニとダケアッテは「A ダケニ／ダケアッテ B」という形式で、A が原因で B が結果という因果関係を持つ構文がある。一見、ダケニとダケアッテは交換可能であるが、必ずしも交換可能ではない例が存在する。本論文では、ダケニは A を第 1 項とし原因として解釈し、B を第 2 項とし結果として解釈し、一方、ダケアッテは A を第 1 項とし原因として解釈し、B を第 2 項とし当然帰結する結果として解釈すると主張する。その上で、ダケニとダケアッテが与える意味役割の違いによって構造の違いが生まれることを示し、それによって、ダケニとダケアッテの構文の分布の違いが説明できるということを主張する。

目次

1. 問題提起 **1**

2. ダケニとダケアッテの違い **3**

3. 分析 **7**

3.1. ダケニとダケアッテが作る構造 **7**

3.2. ダケニとダケアッテの違いの説明 **10**

4. 先行研究との比較 **13**

4.1. 中畠(1995) **13**

4.2. 前田(2009) **14**

4.3. 益岡(2011) **14**

5. まとめ **15**

参照文献 **17**

謝辞 **18**

1. 問題提起

日本語には(1)のようにダケニを使用した形式の構文がある。

(1) a. 人気な商品｛だけに｝すぐに売り切れる。
b. 頑張った｛だけに｝成功した。

たとえば、(1a)は、「人気な商品であるので、すぐに売り切れことになった」という解釈である。また、(1b)は、「頑張ったので、成功した」という解釈である。(1)に似た解釈を得られる構文として、(2)のようにダケアッテを使用した形式がある。

(2) a. 人気な商品｛だけあって｝すぐに売り切れる。
b. 頑張った｛だけあって｝成功した。

(1a)の「人気な商品であるので、すぐに売り切れることになった」という解釈であるように、この構文は「人気な商品」と「すぐ売り切れる」に因果関係が認められる。

ダケニとダケアッテを用いた構文について、たとえば、中畠(1995)は、ダケニの解釈について、前件が判断の根拠となり、そこから後件が当然の帰結として導き出されると述べている[1]。それは、(1a)の「人気な商品」を根拠、原因とし「すぐに売り切れる」が結論結果として導かれるということである。つまり、ダケニとダケアッテを用いた構文は、原因と結果の因果関係を持つ構文である。

ダケニとダケアッテは一見交換しても、同じような解釈が可能であるように見える。

(3) a. 前評判がいい映画｛だけに｝おもしろい。
b. 前評判がいい映画｛だけあって｝おもしろい。

(4) a. 期待の新人｛だけに｝活躍した。
b. 期待の新人｛だけあって｝活躍した。

[1] 寺村(1991)はダケニは X ニの X と格助詞ニの間にダケが入り、ダケとニの結びつきが強くなって独自の意味を持つようになったものであると述べている。三枝(1991)もダケニはダケとニによって生じたものによってできたものであることから、それぞれ本来の意味も残されていることに着目し、ダケニの意味の説明を試みている。

たとえば、(3)は、ダケニでもダケアッテでも、「前評判がいい映画だからおもしろい」という解釈になるように見える。(4)のような場合でも同様である。

しかし、(5)、(6)のように、ダケニとダケアッテを交換すると容認性に違いが見られる場合がある。

(5) a. 前評判がいい映画｛だけに｝つまらなくて拍子抜けした。
b. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらなくて拍子抜けした。

(6) a. 期待の新人｛だけに｝活躍しなくて驚いた。
b. 期待の新人｛*だけあって｝活躍しなくて驚いた。

(5)では、ダケニを使用することができるが、ダケアッテを使用することはむずかしい。同様に、(6)でも、ダケニを使用することができるが、ダケアッテを使用することはむずかしい。

このように、一見交換可能に思えるダケニとダケアッテは、容認性に違いが見られる場合がある。本論文では、なぜ一見交換可能に思えるダケニとダケアッテにこのような違いが見られるかを明らかにすることが目的である。

本論文の構成は次のとおりである。第 2 章では、まず、ダケニとダケアッテにどのような違いがあるかということを記述する。第 3 章では、ダケニとダケアッテでは、付与する意味役割が異なるという本論文の分析を提案し、それをもとに、構造の違いを示し、現象を説明する。第 4 章では、本論文の提案を先行研究と比較し、先行研究の分析では、それぞれ説明のできない例があるということを示す。

2. ダケニとダケアッテの違い

ダケニとダケアッテは、1 章で示したように、(3)、(7)-(10)のような場合はどちらも容認される。

(3) a. 前評判がいい映画｛だけに｝おもしろい。
b. 前評判がいい映画｛だけあって｝おもしろい。

(7) a. 古いパソコン｛だけに｝動作が遅い。
b. 古いパソコン｛だけあって｝動作が遅い。

(8) a. 犬｛だけに｝鼻がいい。
b. 犬｛だけあって｝鼻がいい。

(9) a. バレーボール選手｛だけに｝背が高い。
b. バレーボール選手｛だけあって｝背が高い。

(10) a. 頑張って勉強した｛だけに｝第一志望校に入学できた。
b. 頑張って勉強した｛だけあって｝第一志望校に入学できた。

たとえば、(3)は、ダケニの場合もダケアッテの場合も「前評判がいい映画」が原因として解釈され、その原因に対する結果として「おもしろい」が解釈されるということである。(7)の場合も、「古いパソコン」が原因として解釈され、その結果が「動作が遅い」と解釈されるということである。このように、原因から当然帰結する結果になる場合、ダケニもダケアッテも容認される。(8)-(10)も同様である。

一方、(11)-(15)のように、原因から予想できない結果になる場合、ダケニもダケアッテも容認することができない。

(11) a. 前評判がいい映画｛*だけに｝つまらない。
b. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらない

(12) a. 古いパソコン｛*だけに｝動作が速い。
b. 古いパソコン｛*だけあって｝動作が速い。

(13) a. 犬｛*だけに｝鼻が利かない。
b. 犬｛*だけあって｝鼻が利かない。

(14) a. バレーボール選手｛*だけに｝背が低い。
b. バレーボール選手｛*だけあって｝背が低い。

(15) a. 頑張って勉強した｛*だけに｝第一志望校に入学できなかった。
b. 頑張って勉強した｛*だけあって｝第一志望校に入学できなかった。

たとえば、(11)は、「前評判がいい映画」が原因であるが、その原因に対する結果として「つまらない」と解釈されることができない。また、(12)の場合も、「古いパソコン」が原因であるが、その原因に対する結果として「動作が遅い」と解釈されることができない。(13)-(15)も同様である。

ところが、ダケニの場合、(11a)に対して、「つまらない」に「拍子抜けした」が付け加えられた主観的な述部である「つまらなくて拍子抜けした」であれば、(5a)のように容認されるようになる。

(11) a. 前評判がいい映画｛*だけに｝つまらない。

(5) a. 前評判がいい映画｛だけに｝つまらなくて拍子抜けした。

原因から予想されない「つまらない」という結果のため容認されない(11a)に対して、(5a)が容認されるのは、「つまらなくて拍子抜けした」になったからであろう。すなはち、ダケニは原因に対して当然の帰結でなくても、容認されるということである。

(16)も同様に、原因に対して当然の帰結でなくても容認される。

(16) a. 古いパソコン｛だけに｝動作が速くて驚いた。
b. 犬｛だけに｝鼻が利かなくて驚いた。
c. バレーボール選手｛だけに｝背が低くて意外だ。
d. 頑張って勉強した｛だけに｝第一志望校に入学できなくて残念だ。

しかし、ダケアッテの場合は、(5b)のように、「つまらなくて拍子抜けした」であっても容認されない。

(11) b. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらない。

(5) b. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらなくて拍子抜けした。

(5b)のように、「つまらない」にさらに「拍子抜けした」という表現を加えても、ダケアッテの場合、容認することはできない。(17)も同様である。

(17) a. 古いパソコン｛*だけあって｝動作が速くて驚いた。
b. 犬｛*だけあって｝鼻が利かなくて驚いた。
c. バレーボール選手｛*だけあって｝背が低くて意外だ。
d. 頑張って勉強した｛*だけあって｝第一志望校に入学できなくて残念だ。

ダケアッテの分布を(3b)と(18)にまとめてみる。

(3b) 前評判がいい映画｛だけあって｝おもしろい。

(18) a. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらない。（＝(11b)）
b. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらなくて拍子抜けした。（＝(5b)）

(3b)のように原因である「前評判のいい映画」から当然帰結する結果である「おもしろい」の場合、容認される。一方で、(18)のように原因である「前評判のいい映画」から当然帰結される結果でない「つまらなくて拍子抜けした」の場合、容認されない。つまり、ダケアッテは原因から当然帰結する結果でないと結果として解釈できないのである。

ダケニの分布を(3a)と(19)にまとめてみる。

(3a) 前評判がいい映画｛だけに｝おもしろい。

(19) a. 前評判がいい映画｛*だけに｝つまらない。（＝(11a)）
b. 前評判がいい映画｛だけに｝つまらなくて拍子抜けした。（＝(5a)）

(3a)のように原因である「前評判がいい映画」から当然帰結する結果である「おもしろい」の場合、容認される。また、(19b)のように、結果が当然帰結するものでなくとも、event で主観的述語である「つまらなくて拍子抜けした」の場合にも容認される。一方、(19a)のように、特性記述で原因から当然帰結する結果でない「つまらない」の場合、容認されない。つまり、ダケニは、原因から考えられる結果が event で主観的述語であれば、当然帰結する結果でなくとも容認できる。

以上から、ダケニは原因から考えられる結果が event で主観的述語であれば、当然帰結する結果でなくとも容認できる。一方、ダケアッテは原因から当然帰結する結果のみ容認される。

3. 分析

本論文では、ダケニは(20)の、ダケアッテは(21)の特性を持つと提案する。

(20) ダケニ
ダケニは最初に merge するものを第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge するものを第 2 項とし、結果として解釈する。

(21) ダケアッテ
ダケアッテは最初に merge するものを第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge するものを第 2 項とし、当然帰結する結果として解釈する。

そして、本論文の問題提起で掲げた、ダケニとダケアッテで容認性に違いが見られるのはなぜかという問題に対して(22)のように提案する。

(22) ダケニとダケアッテで第 2 項に与える意味役割が違うため、容認性に違いが見られる。

3.1. ダケニとダケアッテが作る構造

本論文の主張に基づくと、(5)の違いがあるのは、(20)(21)の違いがあるからではないだろうか。言い換えると、ダケニは第 2 項を結果として解釈し、ダケアッテは第 2 項を当然帰結する結果として解釈するため、(5)のような容認性の差が見られるのではないだろうか。

(5) a. 前評判がいい映画｛だけに｝つまらなくて拍子抜けした。
b. 前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらなくて拍子抜けした。

そこで、ダケアッテが与える意味役割に注目する。ダケアッテが第 2 項に与えるのは当然帰結する結果という意味役割である。事態と事態が当然帰結するということは、時間的、空間的に左右されることなく成り立つ性質のものである。つまり、ダケアッテは時間的、空間的な要素よりも、中心的な関係に作用するものと考えられる。具体的にいうと、(5b)のダケアッテは「前評判がいい」という原因に対して「つまらない」のみが結果として解釈され、その「つまらない」が当然帰結する結果ではないために容認されないと考えられるのではないだろうか。

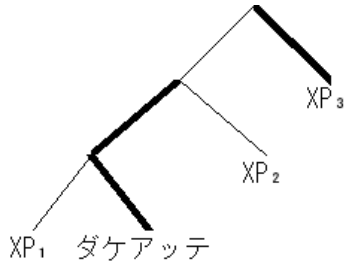
(5)　b.　前評判がいい映画｛*だけあって｝つまらなくて拍子抜けした。

一方で、(23)の場合、ダケアッテは容認される。

(23)　　前評判のいい映画｛だけあって｝おもしろくて感動した。

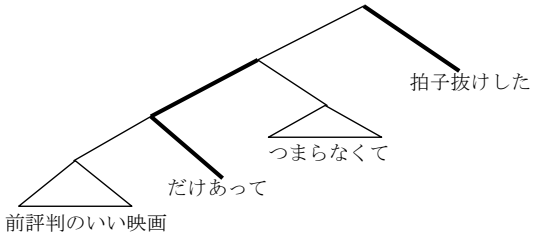
(5b)で「つまらない」だけを問題にしていることを考えると、(23)も「おもしろい」が当然帰結する結果であるため、(23)は容認されるのである。そこで、ダケアッテは、(24)のような構造を作ると考えたい。

(24)　　ダケアッテが作る構造



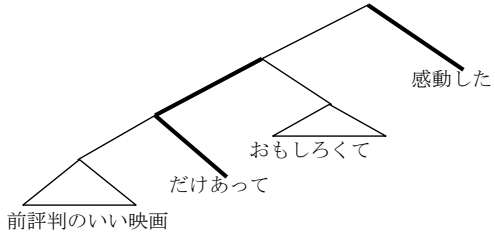
したがって、(5b)は(25)のような構造になっており、原因である「前評判のいい映画」から当然帰結する結果は、「つまらなくて」である。

(25)　　(5b)の構造



同様に、(23)も(26)の構造になっており、原因である「前評判のいい映画」から当然帰結する結果は、「おもしろくて」である。

(26)　　(23)の構造



(23)は第 2 項を構成する「おもしろくて」と「感動した」が主観性によって結びつきやすい場合であった。しかし、(27)のように、第 2 項を構成する「おもしろくて」と「いろんな人に勧めた」の結びつきにくいと考えられる場合も、容認することができる。

(27)　　前評判のいい映画｛だけあって｝おもしろくていろんな人に勧めた。

それは、(27)で「前評判のいい映画」という原因に対して、当然帰結する結果は「おもしろくて」であため、第 2 項に当然帰結する結果ではない要素が adjoin しても容認されるのである。

ダケアッテに対して、ダケニは(24)と同じ構造を取ってもおかしくない。

(28)　　前評判のいい映画｛だけに｝おもしろくて驚いた。

(28)の場合、「前評判のいい映画」という原因に対して「おもしろくて驚いた」句全体を結果として解釈することもできるが、「おもしろくて」を結果として解釈することもできる。つまり、ダケニはダケアッテと同じ(24)の構造にもなりうる。

しかし、(5a)の場合、「前評判のいい映画」という原因に対して「つまらなくて」を結果として解釈すると、(19)のように、容認することができないはずである。

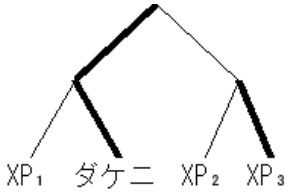
(19)　　前評判のいい映画｛*だけに｝つまらない。

(5)　a.　前評判のいい映画｛だけに｝つまらなくて拍子抜けした。

しかし、(5a)が容認できるのは、ダケニが「つまらなくて拍子抜けした」全体を第 2 項とし、結果として解釈するためである。このように考えると、ダケニは(29)のような構造を

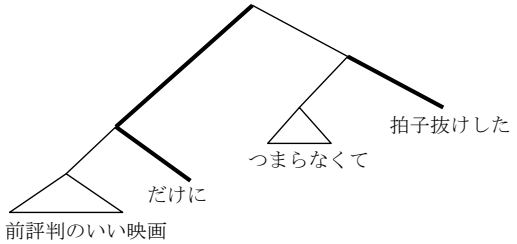
作るといえる。

(29)　　ダケニが作る構造



したがって、(5)は(30)のような構造になっており、原因である「前評判のいい映画」から当然帰結する結果は、「つまらなくて拍子抜けした」である。

(30)　　(5)の構造



ダケニは(24)の構造を作り、ダケアッテは(29)の構造を作る。ダケニとダケアッテには構造上の違いがある。

3.2. ダケニとダケアッテの違いの説明

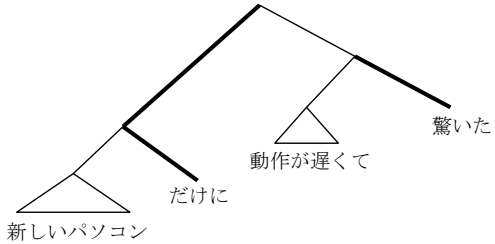
これまで提案した分析で、改めて説明を行う。

(31)はダケニとダケアッテの後部に event で主観的述語をとる文である。

(31)　a.　新しいパソコン｛だけに｝動作が遅くて驚いた。
　　b.　新しいパソコン｛*だけあって｝動作が遅くて驚いた。

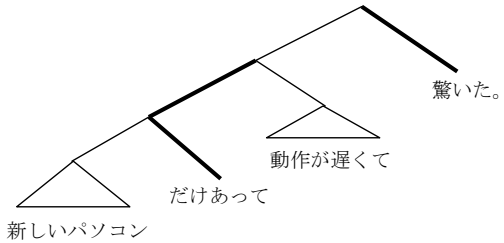
(31a)は(29)のような構造を作る。最初に merge する「新しいパソコン」を第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge する「動作が遅くて驚いた」全体を第 2 項とし、結果として解釈し、(31a)は容認される。構造は(32)のようになる。

(32)



(31b)は(24)のような構造を作る。最初に merge する「新しいパソコン」を第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge する「動作が遅くて」を第 2 項とし、当然帰結する結果として解釈できない。よって(31b)は容認されない。構造は(33)のようになる。

(33)

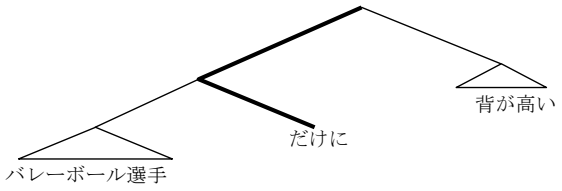


(9)はダケニとダケアッテの後部が状態記述の文である。

(9)　a.　バレーボール選手｛だけに｝背が高い。
　　b.　バレーボール選手｛だけあって｝背が高い。

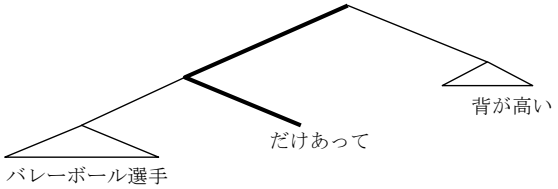
(9a)は最初に merge する「バレーボール選手」を第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge する「背が高い」を第 2 項とし、結果として解釈すし、(9a)は容認される。構造は(34)のようになる。

(34)



(9b)は最初に merge する「バレーボール選手」を第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge する「背が高い」を第 2 項とし、当然帰結する結果として解釈し、(9b)は容認される。構造は以下のようになる。

(35)



このように、本論文の主張で、説明することができるのである。

4. 先行研究との比較

本章では、本論文の提案を中畠(1995)と前田(2009)と比較し、先行研究の分析ではそれぞれ説明できない例があるということを示す。

4.1. 中畠(1995)

中畠(1995)において、中畠はダケニとダケアッテについて、ダケニとダケアッテは後件がプラス評価のものは交換可能であるが、マイナス評価のものではダケアッテは使いにくいと述べられている。

(36) a. 人気者｛だけに｝、仕事に不自由しない。 [中畠 1995: 524, (8)]
b. 人気者｛だけあって｝、仕事に不自由しない。

(37) a. 人気者｛だけに｝、敵も多い。 [中畠 1995: 524, (8)]
b. 人気者｛??だけあって｝、敵も多い。

(36)は後件「仕事に不自由しない」がプラス評価であるためダケアッテと交換可能である。しかし、(37)は後件「敵も多い」がマイナス評価であるため、ダケアッテと交換しにくいと述べている。

しかし、後件にマイナス評価である場合も、当然帰結できる結果と解釈できるならば、文脈を付ければ解釈は可能であり、容認性も上がる。

(38) a. 優しい人｛だけに｝怒ると恐い。
b. 優しい人｛だけあって｝怒ると恐い。

(38b)は中畠によると、容認しにくい。しかし、「普段優しい人だからこそ、その人が怒ると恐く感じる」という文脈を付ければ、「怒ると恐い」は当然の帰結という解釈ができるため、容認される。(37b)も「人気者であるからこそ、嫉妬されて敵が多い」という文脈を付ければ、容認することができる。

また、中畠は、ダケニについて、前件から最もであると感じられるような結果であることを示す文であると述べている。これについて、本論の(5a)、(6b)で反例を示すことができる。

(5) a. 前評判がいい映画｛だけに｝つまらなくて拍子抜けした。

(6)　a.　期待の新人｛だけに｝活躍しなくて驚いた。

(5a)「前評判がいい映画」という原因に対し「つまらなくて拍子抜けした」は当然帰結するべき結果ではないが、(5a)は容認される。(6a)も同様である。

4.2. 前田(2009)

前田(2009)は、A ダケニ B が、B に A との比較による程度性のある事態が要求されることに着目して、「A が理由になっていることによって A 以外の場合に比べてより B であるという因果関係を表している」と指摘している。

たとえば(39a)のように「合格した」のような程度性を持たない内容がくると容認できないとしている。

(39)　a.　*一生懸命勉強した｛だけに｝、合格した。
　　b.　一生懸命勉強した｛だけに｝、成績は非常によかった。[前田 2009: 155, (200)]

しかし、(39a)は十分に容認できるものである。

(39)　太郎は、高校 2 年生から毎日一生懸命勉強したので、難関大学に合格することができた。
　　a.　一生懸命勉強した｛だけに｝、合格した。

また、次のような例も十分容認できるものである。

(40)　　一生懸命走った｛だけに｝間に合った。

程度性は必ずしも容認性に関係してはいない。

4.3. 益岡(2011)

益岡(2011)は日本語の接続形式の多様性から共通の要素をもとに複数の類義的接続形式が分かれ出るという「接続形式の分化」に着目して、ダケニとダケアッテを観察した。益岡(2011)は、ダケニは事態のスケール性に基づく前件と後件の比例関係を表し、また、事態を積極的に評価するという意味特性を持っており、ダケニを基にして部分的な意味特性を明示したものが、ダケアッテと述べている。本論文ではダケニとダケアッテの意味的、構造的違いに着目した。しかし、益岡(2011)のような、接続形式の分化という観点または「バカリ」のような他の因果関係を示す接続形式との関連性は今後の課題としたい。

5. まとめ

本論では、ダケニとダケアッテで容認性に違いが見られるのはなぜかという問題について論じてきた。まず、ダケニとダケアッテの持つ特性の違いについて、(20))、(21))のように提案した。

(20)　ダケニ
　　ダケニは最初に merge するものを第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge するものを第 2 項とし、結果として解釈する。

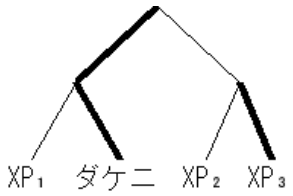
(21)　ダケアッテ
　　ダケアッテは最初に merge するものを第 1 項とし、原因理由として解釈する。次に merge するものを第 2 項とし、当然帰結する結果として解釈する。

そして、容認性の差は(22))のためであると提案した。

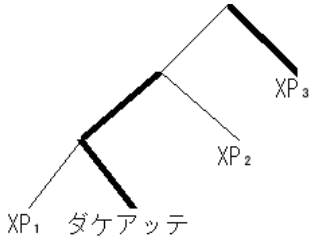
(22)　　ダケニとダケアッテで第 2 項に与える意味役割が違うため、容認性に違いが見られる。

ダケニが(29)の構造を作り、ダケアッテが(24)の構造を作ると考えると、この構文を説明することができる。

(29)　ダケニが作る構造



(24)　ダケアッテが作る構造



本論文の提案によって、ダケニとダケアッテを用いた構文の容認性の差について説明することができる。

参照文献

前田直子 (2009) 『日本語の複文－条件文と原因・理由文の記述的研究』東京 : くろしお出版.

益岡隆志 (2011) 「原因理由を表すダケニとダケアッテの分化」『日本語・日本学研究』東京外国語大学国際日本研究センター 1:1-12.

中畠孝幸 (1995) 「ダケニとダケアッテ－通念依存の形式－」宮島達夫・仁田義雄（編）『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』521-530. 東京：くろしお出版.

三枝令子 (1991) 「「だけに」の分析」『言語文化』一橋大学 27:47-63.

寺村秀夫 (1991) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』東京：くろしお出版.

謝辞

本論文を作成にあたり、指導教官である上山あゆみ先生にはお忙しい中、丁寧なご指導をいただきました。感謝申し上げます。また、論文の構想から完成まで終始適切な助言と指導をいただきました九州大学文学部言語学研究室の東寺祐亮氏に深く感謝いたします。